

令和元年度学校図書館専門部会県外視察研修会 報告書

(記載責任者 磐田東中学校・高等学校 司書教諭小林みどり)

1. 研修目的

県外の先進的な公共図書館・学校図書館の視察、並びに参加職員間の情報交換や交流を通して自校図書館の充実のための具体的方策について知見を得る。

2. 期 日 令和元年11月21日(木)・22日(金) 1泊2日

3. 参加者 16名

4. 視察・訪問校

①11月21日 【a 京都市立堀川高等学校】

京都市中京区東堀川通錦小路上る四坊堀川町622-2

電話 075-211-5351

【b 漢字ミュージアム】

京都市東山区祇園町南側551

電話 075-757-8686

②11月22日 高槻中学校・高等学校

大阪府高槻市沢良木町2-5

電話 072-671-0001

5. 日 程

①11月21日(木)

9:50 京都駅八条東口集合

10:30～12:30 京都市立堀川高等学校 訪問視察研修

概14時～2時間程度漢字ミュージアム視察研修

高槻市に移動し、参加者懇談会

②11月22日(金)

9:40 阪急高槻市駅改札口集合

10:00～14:30 高槻中学校・高等学校訪問視察研修

13:20～14:10 「図書館の活動について」司書教諭鬼丸先生より

14:30～15:00 質疑応答・諸連絡・閉会

閉会后、高槻市駅にて解散。新幹線こだま各駅にて帰着

6. 研修内容

【①a：京都市立堀川高等学校】

研修校概要

視察校は明治41年創立以来、京都市立堀川高等女学校として40年の歴史を持つ校舎に拠り、中京地区を中心に普通・商業・家庭及び音楽の4課程を設置、約2000名の生徒を擁して、京都市立堀川高等学校として発足した伝統校であり、進学校である。今や京都大学の現役合格率では、公立高校としてはトップクラスである。1999年に「探究科」というユニークな専門学科を新設すると、2002年には国公立大学の現役合格者が前年の20倍となり、「堀川の奇跡」と呼ばれた。

「探究」は全生徒全職員で取り組む。前期、後期の二学期制に分かれる中で1学年前期には研究テーマの設定の仕方、活動の進め方、論文の書き方、参考文献の引用の仕方など、探究の「型」を学ぶ。後期から9つに分かれたそれぞれのゼミでは、国英数や物理、化学など従来の科目に即した形で構成されるが、1学年の2月くらいまでに研究テーマを徹底的に掘り下げ、自身オリジナルのテーマ設定をする。

研 修

《図書館「ROHM ECO RIBRARY」》

「ROHM ECO RIBRARY」はローム株式会社の協力で館内照明の大部分をLED化した、2011年にリニューアルオープンした新しい図書館である。ここで探究の授業も行われる。視察研修当日も一名の教師に5、6名の生徒というゼミ形式の授業が図書館内の各所で行われていた。

図書館長の岩本教諭よりお話を伺う。「ROHM ECO RIBRARY」はそれまで個々人の学習空間であった図書館が広く話し合いのできる空間になった点に変化した。蔵書は約4万9千冊、16種の雑誌が置かれている。「探究」では、最新研究の書籍がどんどん出てくるので、古いものはバックヤードに置かざるを得ない場合もある。雑誌もインデックスにはいっており、「探究」で検索ができるようになっている。生徒がPCを持って使用することは現在はなく、教員の許可があれば、スマホを使用してもよいことにしている。

図書館 2階のラーニングコモンズは昨年から実働しており、空間としては大きく変化した。一昨年前までは従来よくある形の視聴覚資料があり、視聴もできるブースを設置したマルチメディア・コーナーであった。現在は可動式(勾玉型など)の机 24台・ホワイトボード 24台を置き、学習、部活動などでも、誰でもがふらっと立ち寄り話し合える空間になっている。貸し出し可能な 25 台のノート PC を備え、自由な発話をすすめられる空間にリニューアルした。部活動での話し合いなども試合の動画を見ながら集まっている。

【①b：日本漢字能力検定協会 漢字ミュージアム】

漢字ミュージアムは「社会生活に必要な日本語・漢字の能力を高め、広く日本語・漢字に対する尊重の念と認識を高める」の理念の下、開館し活動を展開している。京都清水寺で発表される「今年の漢字」や漢字ミュージアムの運営もこれらの事業の一環である。

ミュージアム内は漢字の成り立ちを視聴資料で楽しめる空間から始まり、体験コーナーでは 1. 甲骨文字占い 2. 金印スタンプ 3. 万葉仮名で名前をつくろう 4. 「もとの字」スタンプ(自分の名前の元の漢字をカタカナとひらがなでスタンプを押してみる) 5. 漢字の国名クイズなどがある。また、漢字の歴史絵巻クイズの楽しめるコーナー、漢字に特化した図書館コーナーなどがある。

体験しながら漢字の成り立ちや関わる逸話に触れられ、楽しめる内容になっていた。ミュージアムの場所は八坂神社に近く、2011年に閉校した弥栄中学校の跡地にある。京都の中学校の学びの場が形を変え教育の拠点にしていきたいという基本理念に沿った内容となっていると実感した。

【②：高槻中学校・高等学校】

研修校概要

視察校は昭和 15 年創立の男子進学校である。平成 28 年度年には大坂医科薬科大学との合併を経、平成 29 年度から男女共学校として更なる発展を続けている。スーパーサイエンスハイスクール(S S H)及びスーパーグローバルハイスクール(S G H)の指定校として、生徒が自ら「探究」する学習を通して、また授業にはアクティブラーニングなど多様な人々との協働を通し科学的探究心や創造性を高めるために、大学や研究機関と連携し教育活動に力を入れている。

2018 年「図書館」「アクティブラーニングコモンズ」「コナコピアホール(講堂)」が完成し、`学びの森` のコンセプトの元、教育環境の整備に力を入れている。図書館はあえて知的で品格ある重厚な雰囲気であり、関西の中高の図書館としては最大の広さを誇り二層吹き抜けの開放的な空間、テラスのような自習スペースなど、まさに`学びの森(アカデミック・フォレスト)`を実現している。

研 修

《学校法人 大阪医科薬科大学 高槻中学校・高等学校 概要》

工藤校長先生から、高槻中学校・高等学校の教育理念のこだわりとして『あえて「回り道」をさせる』『「本物」と向き合わせる』『現在の自分と歴然の差を感じさせる』『我慢させる』『他人のことも考える』『アナログコミュニケーションを大切に』『オプション(教育メニュー)を揃える』があり、これらを`学びの森`である図書館を教育活動の拠点に据えて展開させるというお話をいただく。

次に教頭先生から校内の案内を挟んだ形で高槻中学校・高等学校の教育内容(理念、コース制、高大連携、生徒の生活とクラブ活動、中学生の様子)についてご説明いただく。

その後、図書館で鬼丸先生より図書館についてのお話をいただく。

《図書館概要とこれからの学校図書館 鬼丸司書教諭より》

1. 図書館概要 昨年度の図書館入館者数 368. 2 人
年間の貸し出し冊数平均 54. 9 冊
週平均 10～15 時間の授業が行われている

展示について コースに関連したものを中心に展示

コースの特性から 4 類の利用が多いため、入力 は 4 類から始めている。

新着図書展示

イベント ポスター しおり等(この日は先日行ったクリスマス仕様のブックカバーのワークショップを体験)

2. 学習指導要領の内容変化について

旧指導要領は「学校教育の目標及び指導する内容を中心に構成」と表記

新指導要領では「子供たちが学校教育を通じて身に付けるべき資質・能力や学ぶべき内容」な

ど学ぶ側からの視点が強調されている。それに対し、新指導要領の構造的な示しとしては、①何ができるようになるか ②何を学ぶか ③どのように学ぶか…主体的・対話的で深い学びの実現を通じた授業改善 ④子供一人一人の発達をどのように支援するか ⑤何が身に付いたのか ⑥実施するために何が必要か

特に「③どのように学ぶか」に学校図書館への大きな期待が表れている。(具体的には以下の通り)

「学校図書館を計画的に利用しその機能の活用を図り、児童・生徒の主体的対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に生かすとともに、児童・生徒の自主的、自発的な学習活動や読書活動を充実すること」

新指導要領の「学校図書館の目的」は『学校の教育課程の展開に寄与するとともに、児童又は生徒の健全な教養を育成する』と記されている。つまり学校図書館は①読書センターであり、②学習センターであり、③情報センターである。具体的には以下に記載した。

①読書センターとしては「児童生徒の想像力を培い、学習に対する興味・関心などを呼び起こし、豊かな心や人間性、教養、創造力などを育む自由な読書活動や読書指導の場である」②学習センターとしては「児童生徒の自発的・主体的・協働的な学習活動を支援したり、授業の内容を豊かにしてその理解を深めたりする」③情報センターとしては「児童生徒や教職員の情報ニーズに対応したり、児童生徒の情報の収集・選択・活用能力を育成したりする」

3. まとめ「これからの学校図書館」

これからの学校図書館には、読書活動の推進のために利活用されることに加え、調べ学習や新聞を活用した学習等、各教科などの様々な授業で活用されることにより学校における言語活動や探究活動の場となり、主体的、対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に資する役割が一層期待されている。

こういった学校図書館の利活用を進めるに当たって、学校図書館における図書館資料の充実と、学校図書館の運営などに当たる司書教諭及び学校司書の配置の充実やその資質能力の向上の双方を図ることが大切である。特に以下について新学習指導要領には注目すべき記載がある。

司書教諭及び学校司書については、学校図書館がその機能を十分に発揮できるよう、学校図書館の館長としての役割も担う校長のリーダーシップの下、各者がそれぞれの立場で求められている役割を果たしたうえで、互いに連携・協力し、組織的に取り組むよう努めることが大切である。

7. 今回の研修を終えて

「探究」の授業を高校三年間で行い、将来に繋げる実績をあげ続ける堀川高校。中高の図書館とは思えないほどの重厚感で`学びの森`の魔力を放ち、生徒の心を引きつけてやまない高槻中学校・高等学校。図書館の在り方はそれぞれの特色に満ちていたが、共に先進的な取り組みである点、授業での活用の仕方、探究学習と図書館の連携の在り方、図書館に情熱を注ぐスタッフの存在、と、視察研修校として参加者全員が非常に参考になったという感想を持つ内容であった。

特に高槻中学校・高等学校では図書館造りからの校長の強いコンセプトの元、`学びの森`にしたいという思いを実現させた経緯を伺い、一朝一夕には成らない苦勞をものともしない司書教諭の存在に多くの参加者が熱く注目した。

図書館の運営はその学校の方針、育てたい生徒像に繋がる。自身の属する学校の方針、育てたい生徒像を目標として、それぞれの学校が実現に向けてコミュニケーションを図り、スタッフと教員の連携が深まり、授業が行われるように、新しい時代の図書館作りのための研修として大変貴重な機会となった。

次頁に [視察 PHOTO]

[視察 PHOTO]

【① a : 京都市立堀川高等学校】



【② : 高槻中学校・高等学校】

